令和元年度　佐賀県立牛津高等学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
人格の向上を目指し、教養を高めるとともに、専門的な知識・技術の習得を図り、心身ともに健全で調和のとれた有為な職業人として志を高く持ち、社会貢献できる人材を育成する。	①　個々の生徒の希望や特性に応じた、きめ細かな進路指導に努め、進路内定率100%の実績を継続する。 ②　新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの授業の実践やICT機器の利活用をすべての教科、領域で推進する。 ③　全職員が主体的・対話的で深い学びの学習指導案を作成できる力を身に付け、公開授業等を通して研鑽を深める。 ④　保護者と連携して、基本的生活習慣・家庭学習の習慣を定着させる。 ⑤　部活動や各種ボランティア活動を通して、健全な心身を育成する。 ⑥　関係機関や地域と連携しながら、ニーズに応えるスキルを高める。 ⑦　海外との交流を通して、グローバル精神、グローカル精神を培う。

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　個々の生徒の希望や特性に応じた、きめ細かな進路指導に努め、進路内定率100%の実績を継続する。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	個々の生徒がその適性をもとに、積極的に進学・就職活動に取り組み、希望する進路を実現できたか。	・生徒の卒業時に、希望する進路への内定率を100%とする。	・進路講演会、進路を考える会、進路ガイダンスを実施して、自己の適性に応じた進路目標をもたせる。 ・ICTを活用した情報収集を指導する。 ・企業の人事担当者や大学・短大・専門学校などの入試担当者との連絡・連携を充実させる。 ・Classiや基礎力診断テストによる学力向上対策や個に応じて面接・履歴書作成指導等を実施する。	A	・講演会・ガイダンス・進路を考える会など計画通り実施することができ、上級学校や企業の担当者から直接話を聞き、情報を得させることができた。 ・必要に応じて個々の生徒にICTを利用した情報収集を指導した。 ・進学及び就職において、本年度も100%の合格・内定を達成できた。 ・Classiを用いたポートフォリオの作成も、朝学習とともに定着してきている。 ・4年制大学の公募制推薦入試や一般入試に向けた対応・対策が、まだ不十分で　ある。 ・企業の就職選考試験において、とくに面接の形態や内容に変化がみられ、それを　もとに不採用となるケースもみられた。 ・就職活動については、働くことの意義や厳しさ、将来の生活設計などをもう少し　指導する必要がある。	・4年制大学の入試対策として、1年次から志望を明らかにさせ、受験科目を中心とした指導をおこなう。 ・ポートフォリオなどを利用した履歴書や出願書類等の作成、作文対策などの指導をおこなう。 ・朝学習をベースに選考試験等に対応できる学力を養わせる。 ・就職希望者に対して、個別に志望する企業の情報を踏まえた個別指導をおこなう。 ・面接試験の実態に応じて、指導を工夫する。
	●志を高める教育	専門的学習の基礎・基本は定着したか。	・ 家庭科技術検定の合格率100%を目指す。 ア　生活経営科（保育技術検定） イ　服飾デザイン科（被服製作技術検定） ウ　フードデザイン科（食物調理技術検定） エ　食品調理科（食物調理技術検定）	・指導方法や教材についての研究を行い、検定合格に向けての教職員の意識の共有化を図る。 ・技術の到達度を計る学科独自のテストを実施する。	A	・家庭科技術検定を通して専門的学習の基礎・基本の定着を図った。 ア　生活経営科（保育技術検定）92.5% イ　服飾デザイン科（被服製作技術検定）　88% ウ　フードデザイン科（食物調理技術検定）99.2% エ　食品調理科（食物調理技術検定）100.0% 各学科受験種目によっては、合格率が低いものもあるが概ね達成できている。 今後も100%を目指し技術の習得と達成感がもてるように努めたい。	・指導方法や教材についての研究を行い、検定合格に向けての教職員の意識の共有化を図り、個々のレベルに応じた指導を行い、100%を目指し、技術の習得と達成感がもてるように努めたい。
		起業家マインドの育成ができたか。	・学校設定科目「起業家入門Ⅰ」において起業家マインドの育成を目指す。 ・地域活性をテーマとした、「夢つむぎプロジェクト」では、各学科企画力・発想力・プレゼンテーション能力を育成する内容を盛り込む。	・起業家マインド育成について教職員の意識の共有化を図る。 ・「夢つむぎプロジェクト」では、本校主体の活動を実施する。	A	・「起業家入門Ⅰ」では発表会を行い、「高校生ICT利活用プレゼンテーション大会」「佐賀さいこう企画甲子園」へ応募し、発表することができた。 ・「起業家入門Ⅱ」では、学校家庭クラブが行っている「夢つむぎプロジェクト」の一環であるオリーブ祭りで販売・提供する商品やサービスを企画し、成功させ,主体的な活動ができた。	・起業家マインド育成について教職員の意識の共有化を図る。 ・各学科「夢つむぎプロジェクト」について継続的にテーマに沿った活動を行う。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の促進	生徒と向き合う時間の確保はできたか。	・ 校内LAN、SEI-Netをさらに有効活用し、校務の軽減化を図る。	・ 資料のやりとりや職員間の連絡は校内LANを通して行う。また、統計データや文書などは、校務用サーバに保存し、情報の共有化を図る。 ・ SEI-Netを利用した出席統計、成績処理、指導要録の作成を行い、校務の効率化を図る。	A	・各種アンケート調査の結果を校務用サーバに蓄積し、いつでも取り出せるようにしているので、職員間で情報の共有ができている。 ・SEI-Netの校務管理機能を積極的に活用し、校務の効率化に成功している。 ・課題としては、3学期よりSEI-Netが新システムへと移行したことにより、OJTによる研修を継続していくことである。	・今後も、年度当初に必要な情報はいつでも取り出せるように、校務用サーバに整理しておく。 ・職員が新システムに慣れるまで、校内で研修会を開く。

②　新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの授業の実践やICT機器の利活用をすべての教科、領域で推進する。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	生徒の基礎学力は向上したか。	・基礎力診断テストの成績でGTZがD1以上の生徒の割合を50%以上にする。	・目標規準を意識した授業内容、課題の出し方について各教科内で共通理解を図る。	A	・9月に実施した基礎学力診断テストでは、国語・英語・数学の総合成績において、1年生、2年生ともC3であった。 ・課題としては、英語の成績を底上げして、国語・数学・英語の成績の平準化を図ることである。	・朝学習を継続し、基礎学力の向上を図る。 ・小テストの実施や適度の宿題を課すことにより、家庭学習の習慣を確立させる。
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	授業でのICTの有効な利活用ができたか。	・ICT研修会に研修を受講した教員の割合を100%にする。 ・ICTを利活用した授業ができる教職員の割合を100%にする。	・校内で年間2～3回の研修会を実施し、全職員が研修を受講できるようにする。 ・校外での研修会への参加を推奨する。 ・全教職員がICTを利活用した主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実践する。	A	・学校評価アンケートでは、82.1%の生徒が、電子黒板や学習用PCを効果的に活用した授業が行われていると答えている。	・新システム移行期のため、OJTによる研修を継続していく。 ・県教委が行う、ICTを利活用した授業研修会に、職員を積極的に参加させる。

③　全職員が主体的・対話的で深い学びの学習指導案を作成できる力を身に付け、公開授業等を通して研鑽を深める。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	主体的・対話的で深い学びを実現するための手法を取り入れたり、ICTを利活用した授業を行うことができたか。	・生徒の授業満足度を80%以上にする。	・全職員が主体的・対話的で深い学びを実現するための手法を取り入れた授業や、ICTを利活用した授業の公開を1回以上実施し、自己評価や相互評価を継続して授業改善を行う。	B	・すべての授業において、小人数や習熟度による学習集団の編成を行い、細部まで目の行き届いた授業が展開されているが、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業がすべての授業で実践されているとは言えない。	・今年度同様、教員同士の授業参観週間をもうけ、授業研修会を継続する。

④　保護者と連携しながら、基本的生活習慣・家庭学習の習慣を定着させる。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・基本的な生活習慣、規範意識を身に付けさせることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。 ・校内だけでなく、校外でも挨拶ができるようになったか。	・学校のルール（服装、携帯電話等）や交通ルール、社会的なマナーを守ることができる生徒の割合を95%以上とする。 ・交通事故発生件数0を目指す。	・定期的な服装指導を実施し、継続した指導を行う。 ・講演会や集会等で規範意識を持つことや命の大切さを訴えていく。 ・交通講話、登下校指導、自転車点検等を行い、交通事故防止、交通マナー向上に努める。	B	・具体的目標は達成していると思われるが、挨拶等の基本的生活習慣を100%を目指し、もっと向上させる必要があると思われる。 ・交通事故は大きな事故に巻き込まれることはなかったが、事故が数件発生しているので発生件数0を目指す。	・登校指導や全校集会の場を活用し、挨拶や言葉使いの必要性・重要性を訴えていく。 ・交通マナーについては、交通講話や街頭指導を増やし、指導していく。
		家庭での学習習慣を身に付けさせることができたか。	・課題を提出する生徒の割合を100%にする。 ・家庭学習を習慣としている生徒の割合を70%とする。	・生徒の実態に応じた課題の出し方については、課題の質と量を精選する。 ・学年ごとに家庭学習時間調査を行い、家庭学習を定着させる。 ・各教科において、勉強の方法を具体的に示す。	B	・学校評価アンケートで、課題をきちんと提出できていると回答した生徒は82．4%であった。 ・また、家庭学習の習慣が身についていると回答した生徒は41．9%であった。	・各教科からの課題は定期的に継続して出す。 ・各教科の勉強方法は、年度当初に具体的に示す。 ・各教科で小テスト等を細目に行い、学習の習慣を確立させる。

⑤　部活動や各種ボランティア活動を通して、健全な心身を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別活動	部活動や生徒会活動は活性化したか。	・部活動入部率を90%以上を維持する。 ・生徒の自主的活動を目指す。	・未加入者に対しては、加入促進の指導を継続する。 ・生徒が自主的に活動できるように、教師側の指導体制を整える。	A	・93．7%（全学年）の生徒が部活動に加入している。 ・途中退部者の再加入促進が必要である。	・外部の指導者による指導体制の充実。
	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成ができたか。	・朝食喫食率を90%以上とする。	・朝食の大切さについては、保健だよりで発信する。 ・アンケートを行い、意識の喚起を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。	A	・90%程度の生徒が朝食を摂取することの大切さを理解している。 ・食べていない生徒については規則正しい生活、睡眠において課題を抱える生徒が多い。	・アンケート等をおこなうことで、意識づける。また授業や普段の声かけを通して、自分のこととして捉えることの重要性を訴える。 ・保健だよりでは具体的なデータを示し、効果を可視化する。
	●いじめ問題への対応	教育相談体制を整え、早期対応で未然防止を図ることができたか。	・早期発見、チームによる初期対応、保護者と連携した継続的な対応、再発の防止に努める。	・いじめに関するアンケートを年2回以上実施し、状況把握及びきめ細やかな対応に努める。 ・教職員の校内研修を1回以上実施する。 ・学年、学科の縦横の情報共有を密にし、教育相談との連携を図る。 ・授業やその他の場面で変化に気づいたときは早期に情報を共有する。	A	・いじめに関するアンケートを年3回実施したことにより生徒の悩みや困り感について早期発見に努めることができた。 ・校内研修等を通して、学年・学科教師間の情報共有、教育相談との連携を図ることにより、いじめの早期発見・早期解決につながった。 ・学校評価アンケートでは、いじめを許さない教育が行われていると答えた生徒が、昨年度66．8%から今年度は75．7%へと増加した。	・職員会議の際等、情報共有の場を多く設け、職員間の情報共有に努める。 ・生徒向けアンケート、職員研修を継続する。また普段の生活の中でもあらゆる場面で声かけ等を通じ、生徒理解に努める。
	●心の教育	豊かな心の育成を図ることができたか。	・講演会等を実施し、自他の生命を尊重できる生徒を育成する。またその内容について自己の問題としてとらえる能力を培う。 ・佐賀を誇りに思う心情を高める。	・命の大切さを学ぶ教室、性に関する講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にする心を育成するための指導を実施する。 ・「佐賀語り」を有効に活用する。	B	・各種講演会をとおしてほぼ100パーセントの生徒が命の尊さを理解している。しかし、心無い言葉等で相手を傷つけてしまうことがあった。無意識で発している言葉の中にそういった要素があることを、理解していない生徒がが数名みられる。	・後援会、授業、休み時間など普段の生活をとおして、自分の言葉遣いや行動を振り返る時間が必要である。 ・悪気なく乱暴な言葉を発することがあるので、具体的なことばや、場面に応じた言葉の使い方を指導する必要がある。
	●業務改善・教職員の働き方改革の促進	合理的で効果的な活動ができたか。	・教職員の長時間労働を昨年比で10%減らす。 ・九州大会以上の大会に複数の部活動を出場させる。	・毎月の活動計画及び活動実績の確認を行うことにより、各部活動の活動内容を把握し、生徒が安全に活動を行い、教師の負担が過度とならないようにする。 ・平日は少なくとも1日を休業日とする。週休日については、土曜日、日曜日の少なくとも1日以上を休業日とする。	A	・週休日の大会引率業務の振替、応答メッセージ付きの電話の設置等、組織的に対応したことで、長時間労働を昨年比で10%以上削減することができた。 ・男子ソフトボール部となぎなた部が全国大会に出場した。また、技能五輪大会日本料理部門で、本校生徒が敢闘賞を受賞した。	・今後もガイドラインに沿った部活動の運営を行う。 ・限られた時間の中で、指導の効率化を図りながら、九州大会以上の大会に複数の部活動を出場させたい。

⑥　関係機関や地域と連携しながら、ニーズに応えるスキルを高める。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	ホームページの更新、「牛津高校さわやか新聞」の発行等情報発信を積極的に行うことができたか。	・学校の諸活動、行事についての情報を保護者、地域に伝える。 ・HPの更新、「牛津高校さわやか新聞」を発刊する。	・HPの更新に努め、「牛津高校さわやか新聞」を毎月発刊する。	B	・学校評価アンケートで「積極的に情報発信が行われている」と回答した生徒は65．9%で、昨年度から4．4%増加した。	・「牛津高校さわやか新聞」発刊やHP更新を今年度同様に行いながら、保護者会や3者面談の時にも配布したり、HP更新の情報提供を行うなど、きめ細やかに保護者に連絡する。
		地域活動への参加を促進することができたか。	・地域行事やボランティア活動への参加者数を昨年度より増やす。	・地域行事やボランティア活動への参加を積極的に推進する。	A	・学校家庭クラブ活動を中心とし、全校で牛尾山・牛尾梅林の清掃・梅収穫ボランティアをはじめ、地域の方々との交流を図ることができた。本校企画のオリーブ祭りでは、各学科の専門性を生かした商品やサービスを地域の方々に提供することができるとともに、地域の方々に本校の活動への理解を深めていただくことができた。	・学校家庭クラブを中心とする「夢つむぎプロジェクト」活動を継続的にすすめ、地域の方々との交流を深めたい。

⑦　海外との交流を通して、グローバル精神、グローカル精神を培う。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○国際交流	・海外の高校生との交流を通して、国際的な視野をもたせることができたか。	・バンコク（タイ）をはじめ、海外の学校や高校生との交流を実施する。	・参加した生徒による報告会を実施することで、生徒全員に体験を共有させるように努める。	B	・各学科1名バンコク（タイ王国）の海外研修に参加し、2つの学校の訪問をはじめ、海外のホテルで働く日本人の方から話を聞くなど様々な体験を通して、異文化に触れることができた。	・海外研修についての報告会を実施することで、全生徒に体験を共有させるように努めたい。

4　本年度のまとめ ・ 次年度の取組

本年度のまとめ
・全職員が学校の教育目標の実現に向けて取り組むことができた。
・学校評価アンケートでは保護者より本校の教育活動に対し、概ね好意的な評価を得ることができた。特に、基本的な生活習慣や規範ルールが身についていると感じている生徒・保護者が増加している。
・昨年同様、家庭学習の習慣が身についている生徒が少ないのは本校の課題と言える。

次年度の取り組み
・家庭科の技術力の向上、共通教科の基礎学力の向上は、本校教育の目標を達成するうえで不可欠であるため、予習・授業・復習の流れの中で、授業と家庭学習を一体化してとらえることにより、家庭学習の習慣化へ生徒の意識の向上を図りたい。
・保護者や地域との連携を大切にし、授業の工夫や学校行事の改善などを積極的に行うことで、生徒が意欲的、主体的に様々な教育活動に参加できるような環境づくりに努めたい。